

## 知事と区市町村長との意見交換会(御蔵島村)

令和2年10月6日(火)

15時10分～15時30分

○行政部長 それでは意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事からお願いいたします。

○知事 広瀬村長、お元気そうでなによりでございます。今日よろしくをお願いいたします。

○御蔵島村長 いいえ、こちらこそ。

○知事 まずはコロナウイルスとの厳しい戦いが続く中で、感染の拡大防止、そして社会経済活動の両立を図るということで、東京都で今構造改革、これをベースに、梔子にしながら新しい日常、サステナブル・リカバリーという新たな視点でもって長期戦略を描く。この作業を行っているところであります。

是非、まずはコロナ対策、特に島はもうよくご承知のように、御蔵の方も御苦労があったと思いますけれども、このコロナウイルス感染症を乗り越えて、未来の東京を切り拓くということで、オール東京で立ち向かわねばならないと考えております。

今日は広瀬村長から直接御蔵の御意見、御要望を伺いたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

○御蔵島村長 よろしくをお願いいたします。

○行政部長 それでは広瀬村長、御発言をお願いいたします。

○御蔵島村長 どうもありがとうございます。まず第一点に、御礼を申し上げたいと思います。

島しょで、私の島が第1号ということで、そして感染者を出してしまったということで、そして、その中で東京都の皆様、そして三宅支庁、そして三宅島保健所、その方たちに大変な協力をいただき、そして感染者1名ということで、無事抑え込んでいただいたということについては、これは我々住民の方も、それから役所のスタッフ、そして診療所、看護師、こういった方たちが皆さんに大変、本当に御礼を申し上げて、今後御蔵からコロナを出さないと、感染者を出さないとこのからの努力、また続けなきゃいけないと。

そして来年、温かくなるまでに予防注射、コロナに関する抑えるワクチンでも出来ればいいんですが、それがなかなか難しいでしょうということであれば、やはりインフルエンザ、そしてコロナ、これをどうやって抑えていくかということで、今は村単独で、私達の方では47団体が一生懸命に手洗い、それから三密、そして感染予防をどうやったら防ぐか。東京に行ったら必ず帰って来て体温の計測、そういったものを各々が努力をする。もう二度と御蔵からは要するに出さないというような努力を、今必死に取り組んでおります。

そしてこれはやはり他の島で出てしまったということで、島しょではやはり大島、そし

て八丈、小笠原と、我々が最初遭ってしまったあの苦しみを、やはり発生してしまった島には同じような苦しみを今やっているのではないかというふうに思います。

そして島しょ保健所の方では、私も三宅島から大島まで行く間に、一緒に同席した方から、これから大島に応援に伺いますという、保健所の方もおりました。しかし、これからやはり島の方ではまず出さないという努力を続けていくということの部分で、我々もこれから都の応援を受けながら、これからまた頑張りたいと思いますので、一つよろしく願います。

ここの診療所スタッフ、それから看護師、医者1名と看護師3名ということですが、やはり大変な負担があります。今後とも応援をよろしくしていただきたいと思います。とりあえず第一点として、お願いしたいと思います。よろしく願います。

○行政部長 どうぞ、最後まで御発言ください。

○御蔵島村長 分かりました。ありがとうございます。続いて、今感染を拡大させないための対応ということで、小型小離島、御蔵、それから利島、青ヶ島。これはやはりどうしてもこれからの時期というのは帰ってくる、出るにしても感染者が出た場合には、やはり交通体制の部分が、私どもの所も今日は朝、船は欠航しています。そしてこれから冬はほとんど欠航率が高くなってきて、船についてはもう4日間も着かない、若しくは1週間ということが起きてくるというのが、もう目に見えています。

そういった中で感染者が出た場合っていうのは、これは交通アクセスの中で言ったらもうヘリしかない。しかし、そのヘリも実際の予約で一杯になっている場合には、応援のスタッフを要請しても、それでは要するに当日来れないというようなことが起きてきます。

そして島の中でということで、患者そのもの、それから濃厚接触者、こういう者については当然自分達の島でやらなきゃいけないということで、それは島のこれからの課題として、また要するに今までやってきた中で自助努力もしていかなきゃいけないということは、我々の責務と思って、今職員一同、そして診療所のスタッフ、それから看護師等を含めてやっているわけですけど、今後やはり保健所、そして三宅支庁、東京都の協力をこれからもまた、この交通アクセスがよくなるまで続けていかなければいけないということで、この部分については、やはり長期に考えていただきたい。

コロナが来年すぐなくなってしまうのであれば、そんなに問題はない。しかし、いつまで続くかも分からないこの状況の中で島が置かれている立場、特にやはり小型小離島3島は船の欠航が続く中で、やはりヘリコクターのこの利活用というのは、これから気象条件が悪くなればなるほど厳しい状況の中で、島民は生活していくということになりますので、それも踏まえて一つ考えていただければというふうに思います。

それと今後とも発生した時の手順。そして今まで行ってきた御協力について保健所、そして東京都、それから医師の方にも、これからも引き続き御協力をしていただきたいというふうに思いますので、今後とも一つよろしく願います。

そして三番目に、私の所でカシノナガキクイムシという、椎の木に対する虫の被害。こ

それは私の所で10年前に最初発見されて、出まして、その時に九州とか、私は京都の伏見稲荷、こういった所で発生した事例を見に行き、そして来たわけですけど、それから対処することによって、薬、要するに農薬の部分も開発されまして、うちはずっと続けて今までやってきました。

しかし、昨年からこれが大発生をするようになったんですが、昨年はまだ我々の思っているような規模のものではなかったんですが、今年については梅雨明けと同時にこれが分かるようになりました。

そして資料としてお渡しした写真があると思うんですが、これが島全体で標高500メートルから下の部分については被害を受けています。特にこの写真の中ではイナサ地区と書いてあるんですが、これは南郷地区です。赤くなっている、紅葉しているように、これはナラ枯れと言って、今日本で、この中で秋田県の白神山地、ここが世界遺産になっているんですけど、ここもニュースで発生していると。5年前からですということです。その他に伊豆、神奈川の方でやはり発生していると。それとあとは鳥取、兵庫というような所でも大分今年大発生しているということで、特に私の所は急峻な所で、そしてこの被害が今、昨年から起きている場所で、特にインフラ、水力発電所、そして焼却所、し尿処理センター、そして火力発電所、こういった標高500メートル以下にある所の上部の方でこのナラ枯れが発生しています。

そうすると、今後心配なのはこれが5年、6年って経って木が枯れた時、大木が枯れた時に、今のこの台風の災害、それからゲリラ豪雨、そういった時によって土石流として起きた時が一番怖いと。インフラ整備の部分でやられるんじゃないかなってというのが、私の一番今心配しているところです。

御蔵島は津波の心配ありませんということで、私今まで豪語していたんですが、逆に要するに、今度このナラ枯れによって、これが発生して、今はいいんですが、木が枯れることによって、そして大木が枯れることによってもう、数本も、何十本っていう木が倒木となった場合に土石流として発生する。

この辺のことについては、これはやはりどうしても調査をやっていただいて、そしてこの防除も含めてお願いしたい。

今の中で一部調査に入ってくるということを伺っております。しかし、虫の調査ということだけではなくて、やはり土石流とかそういった専門的な災害に対する部分も含めて、調査をお願いしたいということです。

島全部ということで、椎の木は私達の島の中で全体の7割を占めています。ですから標高500メートル以下の所の7割を椎の木で覆われていますので、この規模というのはやはり我々が今まで想像しえなかった部分だと、御理解をしていただければいいのではないかなというふうに思っております。

私の方から、大変厳しいこの自然状況の中で、今御蔵島が8月になって初めて気が付いたということで、緊急で取り上げてお願いしているわけですけど、これからも一つよろしく申し上げます。私の方から以上です。

○行政部長 どうもありがとうございます。それでは知事からお願いいたします。

○知事 村長、御苦勞様でございます。コロナに加えてキクイムシですか。次から次へと、様々な課題がございますが、まずコロナに関連して情報の集約、関係機関の連携を早期に行うというのは、何よりも重要だと思います。そしてまた保健所、町村が連携することが、そして情報を早く把握する、共有する、そして適切な検査の実施を行うということかと思えます。さっきへの音が聞こえていましたけれども、必要な時には必要な対策は1回目の時のように講じていく体制は整えております。

それから島しょ地域というのは何よりもそうやって緊急対策ということを講じていく必要があるわけでありましてけれども、例えば感染が疑われる患者等が発生した場合のための一時滞在施設、これについて村への取組を財政的に支援することと既にしております。

それから感染拡大等の状況に応じて医師、保健師等、都の応援職員を島しょの保健所、出張所へ派遣して、また保健所未設置の村に対しては、保健所職員の派遣で体制強化を図るということと、一時滞在施設の取組の技術的な支援も進めております。

カシノナガキクイムシについては、副知事の方からお話させていただきます。

○副知事 それではカシノナガキクイムシについては、私の方からお答えさせていただきたいと思えます。

スタジイの巨樹が樹勢する御蔵島の豊かな自然は、都民にとってかけがえのない財産と思っております。いわゆる宝島を代表する宝の一つではないかというふうに思っております。

お話のように、島の7割を覆う椎の木が枯れないようにするということはもちろん大切でございますけれども、お話のように今後、将来を見据えて、土石流といった大規模災害に繋がらないようにすることも、非常に大切なことだと思います。

都といたしましても、環境局が中心になりまして、害虫の防除に必要な補助を行うとともに、専門家による現地の調査や技術的な、高い所にあるということでございますので、技術的なことも含めまして、支援を行って参りたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 今の発言を受けまして、村長の方から何かございますでしょうか。

○御蔵島村長 本当にありがとうございます。我々は今やはり御蔵島としてエコツーリズムをやっている中で、11月15日から、観光についてはもう一時的に3月15日までを中止ということになるわけですが、うちの島はもうそれから観光客については来月の15日から来ないわけですが、島民がこれからやはり一番冬場の厳しい時にインフルエンザもこれから流行するというので、全員が予防接種を受けて、それでまずコロナとそれからインフルエンザと、それを持ち込まない。持ち込んでも自分たちで封じ込めるという努力を我々もこれからもやはり続けて、なるべく負担を少なく、東京都には余り迷惑を掛けないような努力も必要じゃないかというふうに思っていますので、今後とも一つ、是非島づくり、そして我々が来年からまた大規模事業をやろうと言った時にこのコロナに、カシノナガキクイムシになってしまったということで、村役場の整備、そういったこれからの課題

の大きい中で大変苦慮する部分があるんですけど、御協力のほどこれからもよろしく願いします。

○行政部長 どうもありがとうございます。最後に知事からお願いいたします。

○知事 現在、318人という島でありますけれども、しっかり島の皆さんの健康、命、そしてまたキクイムシの話もそうありますが、島を守るという、これも長期戦略を描くことによって、よりサステナブル・リカバリーということに繋げていきたいと考えています。また連携取ってともに頑張って参りましょう。御苦労様でございました。

○御蔵島村長 お願いします。ありがとうございました。

○行政部長 ありがとうございます。以上で意見交換を終了いたします。本日は御多用のところ、どうもありがとうございました。